

2017年（平成29年） 10月6日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

9/21~9/27のNYMEX・WTIは、50.55~52.22ドルの範囲で堅調に推移した。

9月28日は、午前中、イラク北部のクルド自治政府の独立問題や前日に米国の原油在庫が4週振りに減少したこと等を受けて堅調に推移したが、午後から、利益確定や月末のポジション調整の売りが出て、反落した。11月限の終値は前日比0.58ドル安の51.56ドルだった。

週末29日は、前日の流れを引き継ぎ、方向感の乏しい展開となったが、わずかに反発して終わった。同日発表のペカーヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数は750基（前週比6基増）と7週振りに増加した。また、トルコのエルドアン大統領は、イラク北部のクルド自治政府独立を牽制し、自国経由の原油パイプライン（日量約50万バレル）の停止を示唆した。11月限の終値は前日比0.11ドル高の51.67ドルだった。

週明け10月2日は、OPECの9月産油量が日量3,286万バレルと前月比同5万バレル増加したとのロイター報道や週末の米国稼働リグの増加等、供給過剰感の再燃から、大幅反落した。11月限の終値は前週末比1.09ドル安の50.58ドルだった。

3日は、先週末の高値を受けた利益確定売りに加え、ドル高基調による原油先物の割高感によって、続落した。11月限の終値は前日比0.16ドル安の50.42ドルだった。

4日は、EIA週報の米国原油在庫の予想を上回る減少で一時的上昇したものの、利益確定売りと投機的な売りに押され続落、9月19日以来2週間振りに50ドルを割り込んだ。11月限の終値は前日比0.44ドル安の49.98ドルだった。

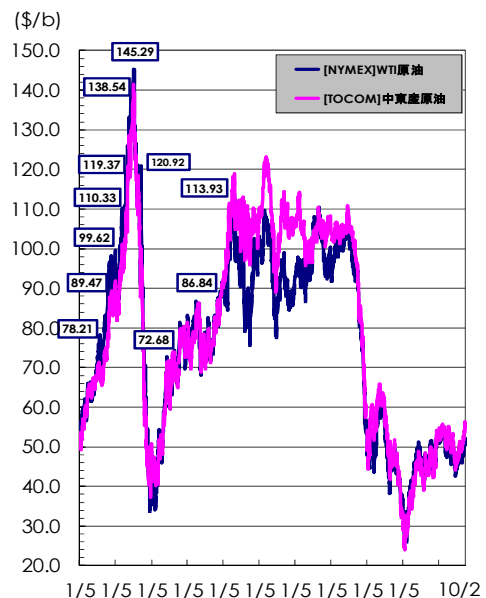
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、前週54.60~57.00ドルの範囲で堅調に推移した。9月28日54.90ドル、29日55.20ドル、10月2日55.20ドル、3日54.40ドル、4日54.20ドルで推移した。

為替は、前週111.55~112.53円の範囲で推移した。9月28日112.95円、29日は112.73円、10月2日112.78円、3日112.97円、4日112.60円で推移した。

主要元売会社の10月第2週に適用する卸価格は、全社ガソリン・軽油が1.0円、灯油が1.5円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、10月2日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.4円の値上がり、軽油は同1.0円の値上がり、灯油は同0.6円の値上がりだった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりだった。この週（10月第1週）の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、全社ガソリン・軽油が1.5円、灯油が1.5~2.0円の値上がりとなった。

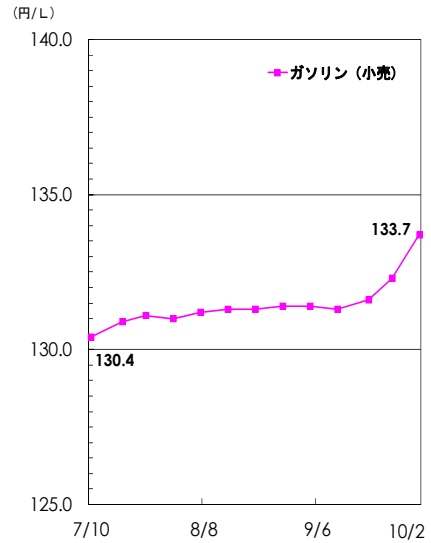
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/24 ~ 9/30	3,431 ▼ -133	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.6 ▼ -3.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/30	12,771 ▲ 204	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	10/2	54.72 ▲ 0.47	▲ 7.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/2	50.58 ▼ -1.64	▲ 1.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	50.62 ▲ 1.21	▲ 5.10
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	34,868 ▲ 633	▲ 5,698
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.53 ▲ 0.62	▼ -7.66
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/2	113.78 ▼ -0.25	▼ -11.38



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/24 ~ 9/30	1,007 ▲ 24	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	816 ▼ -161	▼ -	
	輸出	"	215 ▲ 137	▲ -	
	在庫	9/30	1,681 ▼ -23	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/26 ~ 10/2	53.1 ▲ 1.3	▲ 11.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/26 ~ 10/2	53.9 ▲ 1.1	▲ 13.0
		(TOCOM/中部)	10/2	52.6 ▲ 0.1	▲ 11.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/2	133.7 ▲ 1.4	▲ 11.0	

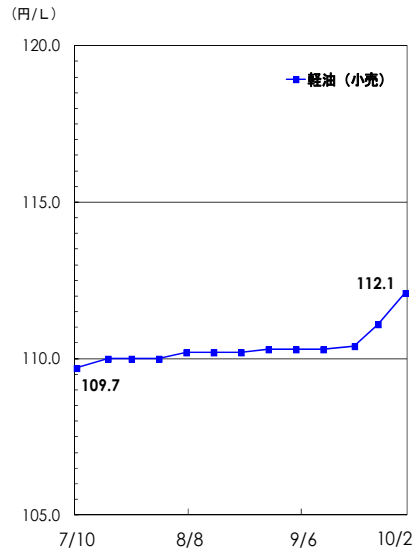
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

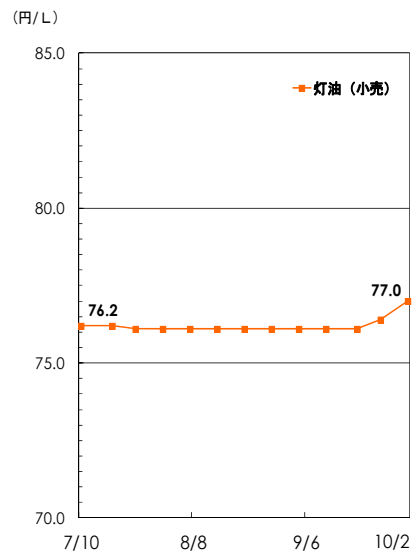
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/24 ~ 9/30	863 ▲ 40	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	603 ▲ 11	▼ -	
	輸出	"	470 ▲ 356	▲ -	
	在庫	9/30	1,318 ▼ -209	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/26 ~ 10/2	51.5 ▲ 1.4	▲ 13.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/26 ~ 10/2	49.6 ▲ 0.6	▲ 10.1
		(TOCOM/中部)	10/2	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/2	112.1 ▲ 1.0	▲ 9.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/24 ~ 9/30	280 ▲ 59	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	331 ▲ 178	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	9/30	2,396 ▼ -51	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/26 ~ 10/2	52.9 ▲ 1.8	▲ 16.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/26 ~ 10/2	54.0 ▲ 1.8	▲ 14.1
		(TOCOM/中部)	10/2	53.8 ▲ 0.1	▲ 13.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/2	77.0 ▲ 0.6	▲ 13.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月4日のNYMEX市場WTI原油は米国エネルギー情報局(EIA)が、米国週間在庫統計で、原油在庫が前週比600万バレル減と、市場予想(同80万バレル減)を大きく上回ったことから、一時反発したが、最近の高値に対応した利益確定売りや投機売りに押されて、続落した。11月限の終値は、前日比0.44ドル安の49.98ドル、12月限の終値は前日比0.42ドル安の50.32ドルだった。

EIAによると、10月2日時点のガソリンの小売価格は前週比1.8セント値下がりの1ガロン2.565ドル(77.0円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.4セント値上がりの2.792ドル

(83.8円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは3週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、9月24日～9月30日に休止したトッパー能力は10.0万バレル/日で、前週に対して横這いであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は343.1万klと、前週に比べ13.3万kl減少。前年に対しては21.6万klの増加。トッパー稼働率は87.6%と前週に対して3.4ポイントの減少、前年に対しては11.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて全油種で増産となった。ガソリン/2.5%増、ジェット/41.6%増、灯油/26.7%増、軽油/4.8%増、A重油/15.4%増、C重油/10.1%増。今週のC重油の輸入は0.6万kl(前週比0.1万kl増)。軽油の輸出は47.0万kl(前週比35.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加した。前年比では、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンの出荷は81.6万kl(対前週16.5%減)と3週振りに前週比で減少、2週振りで前年比で減少となり、4週連続で100万klを下回った。

ジェット10.8万kl(対前週13.9%減)、灯油33.1万kl(対前週117.1%増)、軽油60.3万kl(対前週2.0%増)、A重油20.8万kl(対前週21.2%増)、C重油16.2万kl(対前週17.5%増)。

(単位:千KL)

	今週 (9/24 ~ 9/30)	前週 (9/17 ~ 9/23)	前週比
ガソリン	816	977	▼ -161 (-16%)
ジェット燃料	108	126	▼ -18 (-14%)
灯油	331	153	▲ 178 (116%)
軽油	603	592	▲ 11 (2%)
A重油	208	171	▲ 37 (22%)
C重油	162	138	▲ 24 (17%)
合計	2,228	2,157	▲ 71 (3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月30日時点の在庫は、全油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは168.1万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては11.8万kl多い。

灯油は239.6万kl、前週差5.1万kl減。前年に対しては46.4万kl少ない。

軽油は131.8万kl、前週差20.9万kl減。前年に対しては19.0万kl少ない。

A重油は72.4万kl、前週差3.2万kl減。前年に対しては1.2万kl多い。

C重油は203.1万kl、前週差9.6万kl減。前年に対しては0.1万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (9/30)	前週 (9/23)	前週比
ガソリン	1,681	1,704	▼ -23 (-1%)
ジェット燃料	933	1,010	▼ -77 (-8%)
灯油	2,396	2,447	▼ -51 (-2%)
軽油	1,318	1,527	▼ -209 (-14%)
A重油	724	756	▼ -32 (-4%)
C重油	2,031	2,127	▼ -96 (-5%)
合計	9,083	9,571	▼ -488 (-5.1%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月26日から10月2日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン106～107円台で堅調、軽油50～52円台で堅調、灯油51～53円台で堅調に推移した。

海上スポット価格は、ガソリン109～110円台で上昇後やや軟化、軽油53～54円台で上昇後やや軟化、灯油53～54

円台で上昇後やや軟化し推移した。

先物価格は、ガソリン107～108円台で軟化、軽油49～50円台で値上がり、灯油53～54円台で軟化し推移した。元売の卸価格は、1.5～2.0円の値上げだった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月26日から10月2日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、陸上・海上・先物ともに、全油種で値上りした。

10月第2週(10月5日～11日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月26日～10月2日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油は3.1円の値上がり、軽油は2.2円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.1円の値上がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油が0.6円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替の円安が加わり、原油コストは値上がりだった。

10月第2週の大手元売の卸価格は、0.5～1.5円の値上げだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (9/26 ~ 10/2)	前週 (9/19 ~ 9/25)	前週比
	レギュラー	53.1	51.8
灯油	52.9	51.1	▲ 1.8
軽油	51.5	50.1	▲ 1.4

[期近物/終値] [平均]	今週 (9/26 ~ 10/2)	前週 (9/19 ~ 9/25)	前週比
	レギュラー	53.9	52.8
灯油	54.0	52.2	▲ 1.8
軽油	49.6	49.0	▲ 0.6

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.3	▲ 1.1	▲ 1.2
灯油	▲ 1.8	▲ 1.8	▲ 1.8
軽油	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 1.0
A重油	▲ 1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

10月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.4円高の133.7円、軽油は同1.0円高の112.1円、灯油は同0.6円高の77.0円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは43都道府県、横ばいは2県、値下がり2県、全国最安値は埼玉県(129.4円(同2.2円高)、次が茨城県の130.4円(同横ばい)、最高値は沖縄県の143.6円(同1.7円高)だった。最も値上がりしたのは、2.8円高の新潟県(132.0円)、最も値下がりした県は、0.6円安の長崎県(140.2円)だった。

原油コストは値上がりし、3週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートの円

安が加わり、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、0.5～1.5円の値上げとなった。次週(10月10日)のガソリンの小売価格は、値上がりか予想される。

[資工庁公表] [週動向]	今週 (10/2)	前週 (9/25)	前週比	直近高値	
	レギュラー	133.7	132.3	▲ 1.4	08/8/4
灯油	77.0	76.4	▲ 0.6	08/8/11	132.1
軽油	112.1	111.1	▲ 1.0	08/8/4	167.4

小売価格

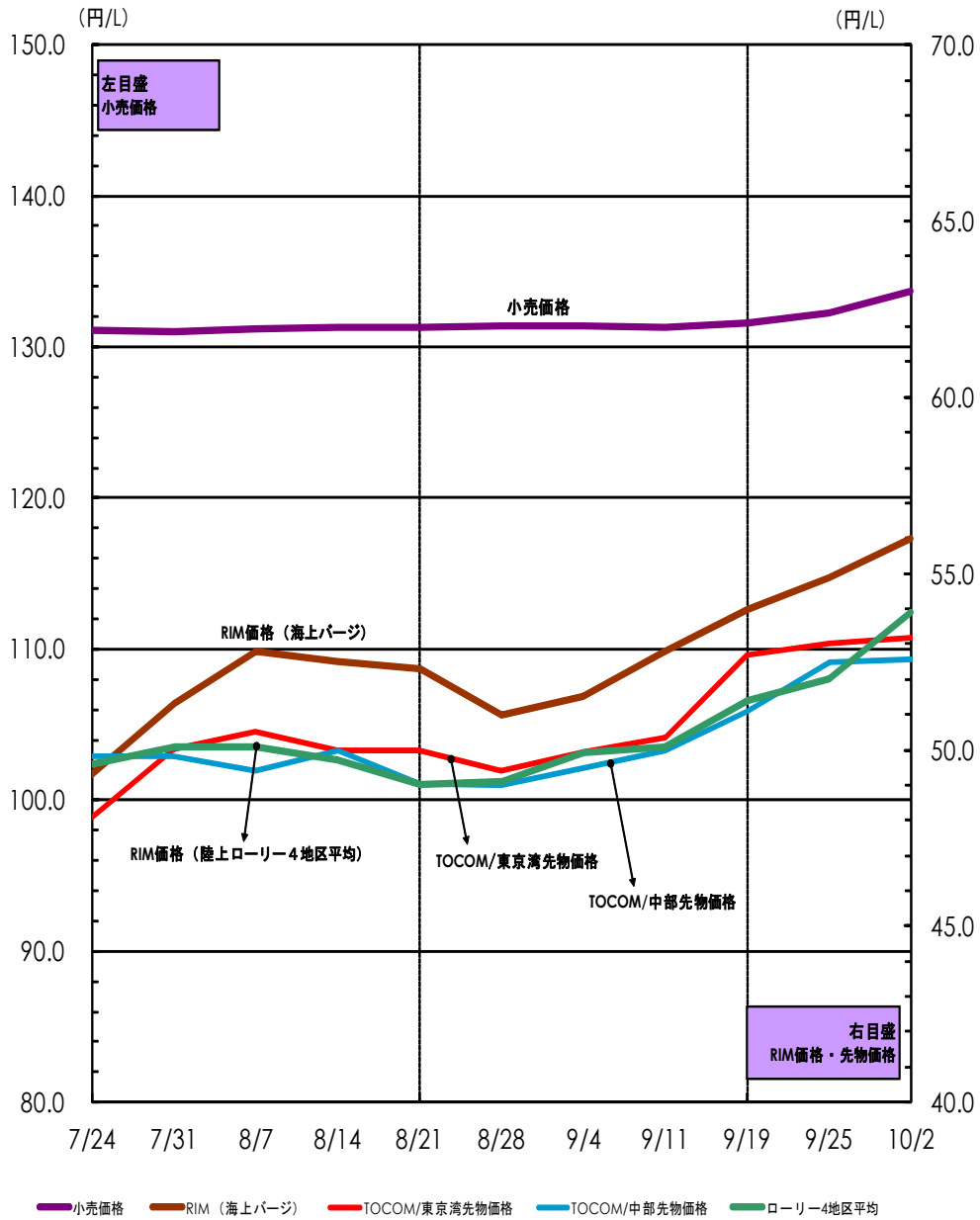
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/7/24 ~ 2017/10/2)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第26号)の公表は、10/13(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。